

# 令和4年度の研究について

理論研究部

## 1 研究テーマ

**問題を科学的に解決する「資質・能力」を育てる理科学習  
－魅力あふれる理科の授業の創造－**

## 2 研究について

名理会では、会員の授業力向上を目指し、令和2年度より上記のテーマで授業研究・実践を進めている。本年度は、「個別最適な学び」と「協働的な学び」という相対する学びのスタイルの一体的な充実が求められていることを背景に、名古屋市で取り組んでいる「なかまなビジョン+」の考え方を理科の授業で具現化することを目標に、以下の「場面」「視点」を設定する。

### (1) 「なかまなビジョン+」における学習過程を理科授業に当てはめて

#### ① 「問題を見いだす」学びの場面

自然の事物・現象から問題を見いだす場面では、どのような教材教具、提示の仕方、発問などが、「理科の見方考え方」を働かせて、めあてをつかむことに有効なのだろうか。

#### ② 「問題解決の力を養う」学びの場面

問題解決の過程において、どのような授業展開や学びを自覚化する工夫が、「理科の見方考え方」を働かせて、自分の考えをもつことや仲間と考えを深めることに有効なのだろうか。

#### ③ 「主体的な態度を養う」学びの場面

まとめや振り返り、発展の場面では、どのような働きかけの工夫が、自分の言葉によるまとめの表現や次の学びにつながる気付きや疑問に結びつくことに有効なのだろうか。

### (2) 「なかまなビジョン+」における指導の視点

#### ① ピア・ラーニング

互いに学び手に教え手にもなり（互惠性）、意見表明と受け止めをしながら（対等性）、一人一人が学びの主体となって（自発性）、知識やスキルを身に付けていく。

#### ② タブレットPCの活用

協働学習の支援ツールの他、振り返りに役立つデジタルドリルなども活用して、学び合い活動と個別最適な学びの充実を両立させていく。

#### ③ 「支援する評価」の在り方

それぞれの学習過程において、児童生徒の学習状況を的確に見取り、個々のつまずきに対して、適切な支援する評価を都度、行っていく。

これらの学習過程と指導の視点を組み合わせた9つの区分【右表】に基づいて実践を集約し、成果や課題を会員相互で共有していく。

場面 \ 視点	ピア・ラーニング	タブレットPCの活用	支援する評価
問題を見いだす場面	I	II	III
問題解決の力を養う場面	IV	V	VI
主体的な態度を養う場面	VII	VIII	IX

※ 9つの区分からは、一見すると実物教材や直接体験が軽視されているようにも見えるが、問題解決の学習過程において、それらの重要性は普遍であり、前提である。そのことを踏まえて、授業づくりを進めてほしい。